

第1回「多職種で考える発達障害と療育研究会」講演会

特別支援教育の現状と問題点・今後の展望

木谷秀勝

山口大学教育学部教授(臨床心理士)

特別支援教育の役割

- 平成15年3月に最終報告(ガイドライン)
→平成19年4月から制度化
- 基本的な理念
- 支援が必要な児童・生徒数 6.5%
(LD、ADHD、高機能自閉症等)

※実際には、10～20%(推定)

本報告の流れ

- 特別支援教育の根幹
- 北九州市の学校の動向(山口県との比較)
- 「本当に困っていること」への支援
- 特別支援教育が抱える今後の課題



山口県の紹介

平成18年と比較して、約10万人の減少

山口県の概要

面積	Area	人口密度	Population Density
1,392,304人	1,392,304人	19(市13、町6)	19(市13、町6)
人口	Population	市町数	Municipalities
(面積は、平成27年10月1日現在。人口は、平成28年12月1日現在。)			

山口県の概要
Profile of Yamaguchi Prefecture

県花(夏みかんの花) Prefectural Flower (Summer Orange)	県木(アカマツ) Prefectural Tree (Japanese Red Pine)	県獣(本州鹿) Prefectural Animal (Honshu Deer)	県鳥(シベリヤ鶴) Prefectural Bird (Siberian Crane)	県魚(ふぐ) Prefectural Fish (Fuzo Fish)

山口県の紹介: 支援学級

特別支援学級 Classes for Special Needs Education (平28.5.1現在)

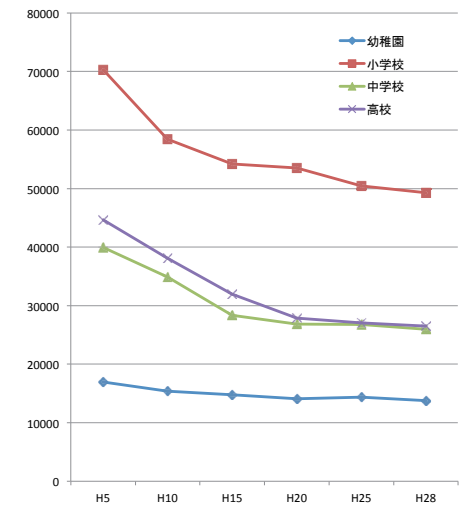
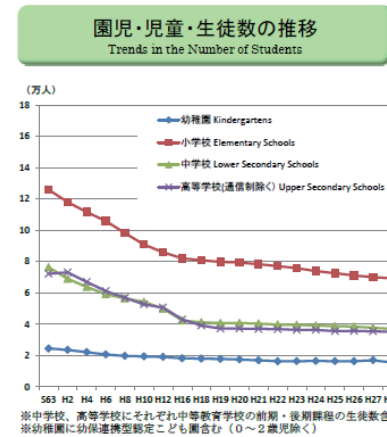
区分	小学校 Elementary Schools		中学校 Lower Secondary School	
	学級数 Number of Classes	児童数 Number of Students	学級数 Number of Classes	生徒数 Number of Students
知的障害 Intellectual Disabilities	216	729	103	299
肢体不自由 Physical/Motor Disabilities	38	49	14	19
病弱・虚弱 Health Impairments	6	7	2	2
弱視 Low Vision	5	5	3	3
難聴 Hard of Hearing	19	25	15	17
言語障害 Speech and Language Disorders	1	1	0	0
自閉症・情緒障害 Autism and Emotional	251	993	118	376
計 Total	536	1,809	255	716

〈平成28年度 山口県における特別支援教育に関する調査〉

山口県と北九州市の比較: 児童・生徒数の推移

山口県

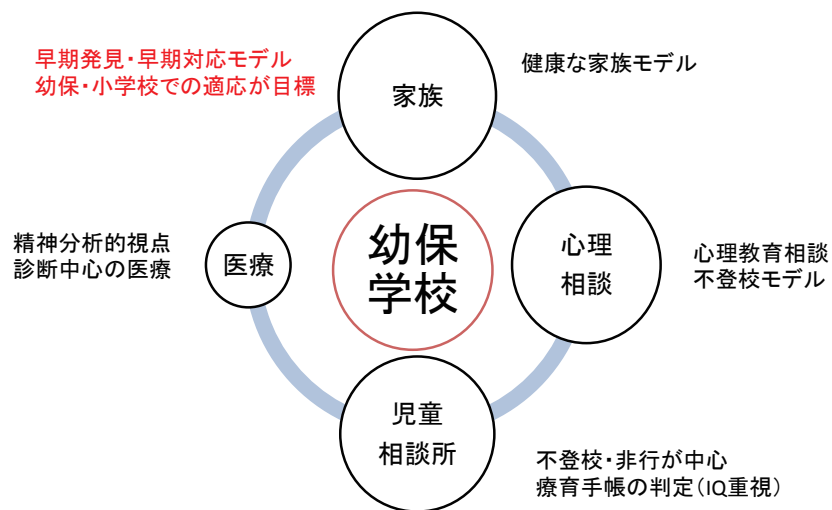
北九州市



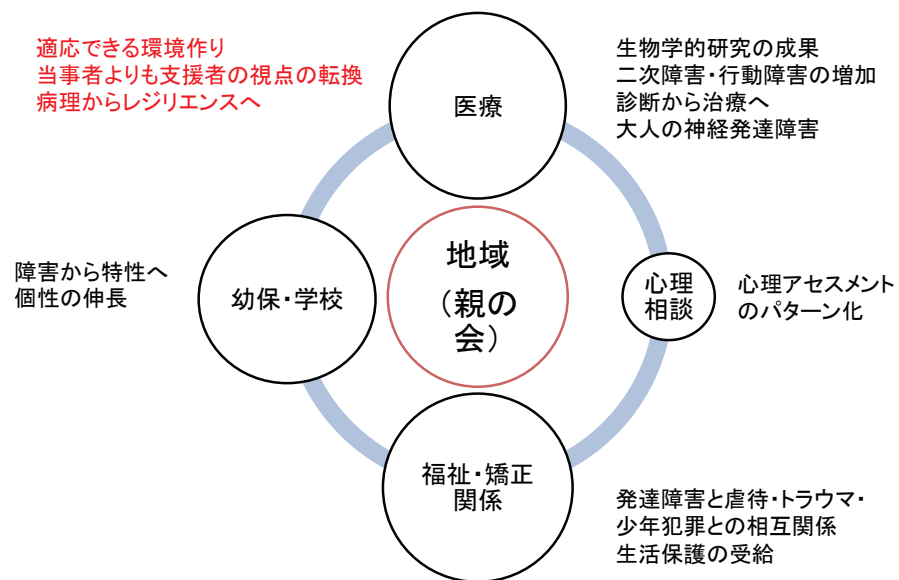
県内で取り組んでいる支援

- 本学研究科附属臨床心理センターでの相談業務
- 下関市にある小児科の非常勤
- 医学部附属病院脳神経外科での検査
- 精神科、耳鼻咽喉科でのコンサルテーション
- 県内の幼保、学校(幼保・小・中・高・総合支援)への支援(定期的な巡回型)
- 地域の親の会へのサポート

20年前の発達障害への支援モデル



現在の神経発達障害への支援モデル



特別支援教育に関わる専門家に求められる視点

- IQ重視から特性重視へ
- 障害像の把握から支援の進め方へ
- 「障害だからできない」から「どうしたらできるか」へ
- 「学校や職場で適応できるように」から「家庭や地域で楽しく生活できる」へ
- 「私」から「私たち」へ

※「頑張る」ためのソーシャルスキルから、「元気を取り戻す」ためのライフスキルとソフトスキルへの支援

「本当に困っていること」への支援

- 自己の内的世界から生じる不安への理解と対応
- 「もっとも見えない障害」である感覚障害への配慮
- 自己理解の重要性: 発達障害児が自分から求める支援

日常・学校生活での支援の優先順位

- 適切な環境調整
- 心身の健康管理
- 家族・学校関係者へのコンサルテーション
- (二次障害への予防的)心理的対応

※最終的には「自己理解」へつなげる

学校支援の実際①: 高校

- 公立の農業高校での支援
- 小学校から継続支援している生徒の入学
- 授業見学を通しての教師との協議(なかなか集まらない)
- 「できないことが当たり前」という教師の視点
- 問題行動を起こす生徒への関心の強さ

幼保・学校との連携

- 基本は、学校・学級全体を1つのパーソナリティとして支援を検討する。
- 個々への支援と同時に、楽しい授業を通じた学級作り(支援を要する児童・生徒が伸びる環境作り)をサポートする。
- 義務教育9年間のカリキュラムを把握しながら、授業支援を行う。
- 今後の課題: 高校における支援の拡大
複式・へき地教育の問題

学校支援の実際②: 高校への介入後

- 支援した生徒が就労できた成果
- 「わかる」授業への工夫が始まる
- 座学中心から実習中心のカリキュラム
- 協議の場に教師が参加するようになる
- 支援をすると伸びる実感
- 就職に向けてのスキルトレーニングの実施

特別支援教育が抱える今後の課題

- 教科教育重視の方向性(校内コーディネータへの丸投げ)
- 専門性を求められるアセスメントの担い手不足
- 「頑張りましょう」としか表現できない担任
- 地域格差・収入格差の是正
- 在留外国人及びLGBTと神経発達障害

改めて、特別支援教育の目的とは

- 地域の活性化(地域に貢献できる人材の育成)
- 生き方の多様性が認められる社会作り
- QOLの向上を目標とする支援体制

※多職種がそれぞれの専門性を活かす